手続きA　針刺し事故等の汚染事故発生時の手続

平日　8:30-17:15,　土曜/祝祭日　8:30-12:30

（この時間帯以外の場合は手続きBを参照して下さい）

手順:①→⑦

平日	職　員　係 内線　5032
土曜 祝祭日	事 務 当 直 室 内線 5038

HBV, HIVのみ当日電話連絡

HCV, HTLV-1,梅毒（RPR）の報告
・検査結果報告は、後日職員係より本人へ紙面にて報告.

追跡調査管理:感染源不明時の検査日程

	曝露時→6週後→3ヶ月後→半年後→1年後				
HTLV-1	○	○	○	○	○
HIV	○	○	○	○	○
HCV	○	○	○	○	○
HBV	○	○	○	○	○
梅毒	○	○	○		

汚染者の血液が「陽性または不明」で継続検査が必要な場合は、上記表に準じて専門医を受診し検査を行う。

①事故報告

②検査同意書配布
エピネット用紙配布
検査依頼票発行

⑤薬剤請求
結果報告書発行

④結果報告

臨床検査部
内線 6676

③検査依頼

（自己血【緑栓試験管3ml＋依頼項目数×1ml（合計最大8ml）】+患者血（自己血と同様）+患者同意書＋検査依頼用紙）及び必要な場合は尿検体（ハルンカップに約20ml）
＊事故時の検査は、公費扱い（無料）
ですので、誤ってコンピューター入力で検査依頼をしないように！

薬　剤　部
内線 6011

⑥薬剤請求

⑦薬剤受取り

汚染事故を起こした学生
（指導医と相談の上、予め検査依頼項目を決めておく）

⑧専門外来受診

専　門　医

＊1回目の受診時:専門医の判断にて疑われる感染症の検査を依頼する。（ただし、事故時に採血し、すでに検査を検査部にて実施している場合は、事故時に依頼した検査と同じ検査（定性）のバーコードのみを検査部免疫血清検査室へ届ける。）
*2回目以降の受診:通常の患者検体と同様に検体にバーコードを貼付して提出する。

*HCV陽性血の針刺し事故直後のインターフェロン（IF）投与は、①発症阻止効果の証明がされていないこと②発症後の2度目のIF使用時の治療効果が低下するという理由で疑問視されています。
*CDCからは事故後のモニター検査で陽性になってからのIF投与が推奨されています。

文献:Center for Disease Control and Prevention. Recommendations for follow of health-care workers after occupational exposure to hepatitis C virus.MMWR 1997;46:603-606.

H27．4　改訂版

注意:汚染患者が判明している場合は、患者の検査同意書を受領の後、採血し自己血と同時に検査を依頼する.

手続きB. 針刺し事故等の汚染事故発生時の手続（検査依頼項目にHIVを含む場合のみ）

夜間 17:15−翌日8:30, 日曜（全日）, 土曜/祝祭日 12：30−翌日8:30

（この時間帯以外の場合は手続きAを参照して下さい）

手順：①→⑧

＊上記時間帯で最も緊急を要する検査はHIV検査です。このため、上記時間帯における汚染事故時には、汚染患者のHIV感染が疑われる場合にのみHIV検査を実施。（HIV以外の検査は、翌日の検査実施で対応可能です。）女性職員で妊娠が危惧される場合は、HIV検査と同時に妊娠反応検査も申し込む。

事務当直室
内線 5038

①事故報告

②検査依頼票発行
エピネット用紙配布
検査同意書配布

⑥事務当直への報告
薬剤請求書の発行

③事故発生の報告（PHS：176−7800）

④検査の依頼

自己血【緑栓試験管3ml＋依頼項目数×1ml（合計最大8ml）】+患者血（自己血と同様）+検査同意書 及び必要な場合は尿検体（ハルンカップに約20ml）
事故時の検査は、公費扱い(無料)ですので、誤ってコンピューター入力で検査依頼をしないように！

⑤HIV検査報告
（検体持参者へ電話連絡）

臨床検査部
PHS176−7800

汚染事故を起こした学生
（指導医と相談の上、予め検査依頼項目を決めておく）

⑦抗HIV薬請求

⑧薬剤受取り

薬剤部
内線 6011

⑨通常診療日に専門外来受診

専門医

H27. 4 改訂版

注意：汚染患者が判明している場合は、患者の検査同意書を受領の後、採血し自己血と同時に検査を依頼する.